

製品名: c-Src ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09465**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	60kDa

抗原情報

遺伝子名	SRC
別名	SRC; SRC1; Proto-oncogene tyrosine-protein kinase Src; Proto-oncogene c-Src; pp60c-src; p60-Src
遺伝子 ID	6714.0
SwissProt ID	P12931
免疫原	c-Src 由来の合成ペプチド。アミノ酸範囲: 360-440

背景

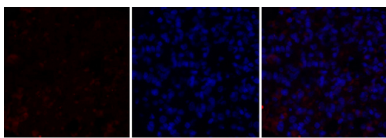
この遺伝子は、ラウス肉腫ウイルスの v-src 遺伝子と非常に類似しています。このプロトオンコゲンは、胚発生および細胞増殖の調節

に關与している可能性があります。この遺伝子によってコードされるタンパク質はチロシンタンパク質キナーゼであり、その活性は c-SRC キナーゼによるリン酸化によって阻害されます。この遺伝子の変異は、大腸癌の悪性化に關与している可能性があります。この遺伝子には、同じタンパク質をコードする 2つの転写バリエーションが見つっています。[RefSeq 提供、2008年7月],触媒活性: ATP + a [タンパク質]-L-チロシン = ADP + a [タンパク質]-L-チロシンリン酸。PTM: c-Src キナーゼ (CSK) によって Tyr-530 がリン酸化されます。リン酸化型は pp60c-src と呼ばれます。リン酸化末端は SH2 ドメインと相互作用し、キナーゼ活性を抑制します。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。チロシンキナーゼファミリー。SRC サブファミリー。類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。類似性: 1つの SH2 ドメインを含みます。類似性: 1つの SH3 ドメインを含みます。サブユニット: SH3 ドメインを介して DDEF1/ASAP1 と相互作用します。CCPG1 と相互作用します (類似性による)。CDCP1、PELP1、TGFB111、および TOM1L2 と相互作用します。MUC1 の細胞質ドメインと相互作用し、それをリン酸化して MUC1 と β -カテニンの結合を増加させます。SH3 ドメインを介して RALGPS1 と相互作用します。SH3 ドメインを介して HEV ORF3 タンパク質と相互作用します。

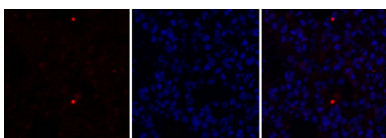
研究分野

ErbB_HER;エンドサイトーシス;VEGF;接着斑;Adherens_Junction;Adherens_Junction;ギャップ結合;GnRH;ヘリコバクター ピロリ感染における上皮細胞シグナル伝達;

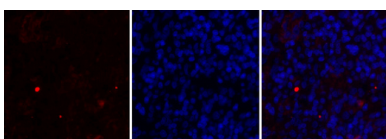
画像データ



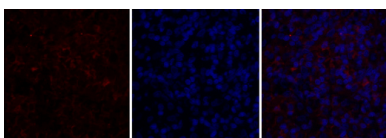
ラット肺組織の免疫蛍光染色。1, c-Src ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



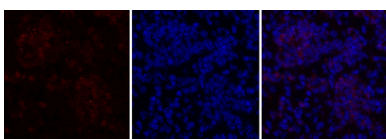
ラット肺組織の免疫蛍光染色。1, c-Src ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



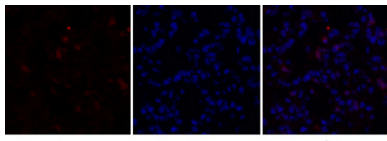
ラット脾臓組織の免疫蛍光染色。1, c-Src ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



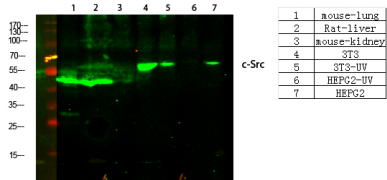
ラット脾臓組織の免疫蛍光染色。1, c-Src ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



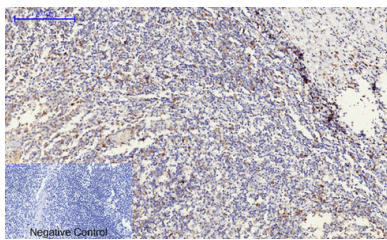
マウス肺組織の免疫蛍光染色。1, c-Src ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



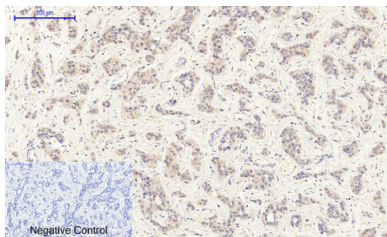
マウス肺組織の免疫蛍光染色。1, c-Src ポリクローナル抗体（赤）を 1:200 に希釈（4℃、一晚）。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈（室温、50 分）。3, 図 B: DAPI（青）10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



c-Src ウサギポリクローナル抗体（1:1000 希釈、4℃、一晚）を用いた各種細胞のウェスタンブロット解析。二次抗体：ヤギ抗ウサギ IgG IRDye 800（1:5000 希釈、25℃、1 時間）



パラフィン包埋ヒト扁桃組織の免疫組織化学染色。1. c-Src ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈（4℃、一晚）。2. クエン酸ナトリウム（pH 6.0）を用いて抗体賦活化（>98℃、20 分）を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈（室温、30 分）。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ヒト肝癌組織の免疫組織化学染色。1. c-Src ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈（4℃、一晚）。2. クエン酸ナトリウム（pH 6.0）を用いて抗体賦活化（>98℃、20 分）を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈（室温、30 分）。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。